

燈火のもとに家人あつまりて松露の砂を疊に
こぼす

代々木原

このゆふべをさな子ふたりつれきたり代々木
の原に車前草をふむ

めざはりになるものもなき原中にかがやき沈
む日ををろがまむ

遠むかうの木立の間見とほしに入日の後のく
れのこりたる

美術學校花園

はらかならの逢ふは稀なり木欒樹の高き木下に
いざなはれ行く

夕ゆふにはみな花びらの落ちぬべし牡丹の花のか
たちくづれぬ

大木たいぼくの楠の枝々葉更はがへ時ときもりあがりたる瑞みづの稚わか
色いろ

唐 忍 冬

さみだれにひたりて青き苔むしろ水はけのよ
き庭づくりせり

齒朶小笹下草多く植ゑてありめだたぬ石は苔
むしにけり

つゆどきに稀なるこよひ月あかり泰山木は今
さかりならむ

から池の小砂利をあげて掃きおくにさみだれ
晴れし苔ひろがりぬ

いとけなきむかし戀しくうゑたりしつきぬき
忍冬の赤き實ひとつ

おのづから春秋過ぎて行く如くわがししむら
は衰へにけり

夏
日

安居あんごにも行かざりしかば家ごもり過ごして早はや
しこの月はじめ

高野山よりのたよりは赤不動きのふをがむと
言短ことみじかなり

安居會にはじめてたたせやりし人おもひてを
ればこほろぎは鳴く

濕疹のなやみすくなきこの夏の安きにつけて
いたくつかれをり

朝なさな葉唐辛子を賣りにくる呼聲癖もきき
馴れにけり

山吹はひとつふたつの返花かへりばな秋のはじめの油照
して

くみかへし手洗鉢に浮く塵をすてむとすれば
稚わかき蓑蟲

くさむらのしげみ離れて二三本狗尾草の穂は
なびくなり

山下町公園

大船のはてし港の岸に来て海を渡らぬ身をか
へりみつ

夏の日のくれゆく時に海原と空との色は見飽
かざりけり

子どもら

子をしかる親の心のつきつめてくれはいかり
の聲あぐるなり

わがわかき時にはわれをいましむる人なかり
きと子らにいへども

世のなかにあらはれずともわが子らはこの父
よりはよくなれと思ふ

女子は二人とも母となりし時男子は二人とも
に遊べり

同級生にはかに死にししらせ来てわが子受け
取りおどろき惑ふ

亡友の親にむかひて何とかもいはむとわが子
ゐすまひただす

としゆかぬわが末の子が友だちの告別式にい
で行きにけり

女子をみなこの末子は二年生になりて何よりも好きに
英語をさらふ

としのくれ

朝あしたいでて夜かへり来るいとまなさきのふの事
もわすれがちなり

いにしへをうらやむ心うすらぎてひたすら今
ををしみけるかも

いにしへのよき事のみをうらやみし心は既に
うしなひにけり

谷中墓地の塔をあふぎついくとせも來ざりし
に寒きそらの晴れたる

福引に山羊も猿もありといひさわぎ動物園に
人のむれ行く

身にしみて雪空さむしをさな子に襟卷させて
街を見に出つ

年の暮にぎはふ街の買物にをさなき孫の二人
をつれぬ

をさな子はみち行きぶりに牛馬を見ればいそ
ぎて近よらむとす

みちの端はたから荷車の瘦馬やせうまは子どもの前に首ふ
りむけぬ

にくみもしへだてもしつれあまりにも根のな
かりける子ども心を

冬池

寒に入りさむさのつよきくもり日に人來ぬ池
の氷のひかる

組石の落水口につらら垂り池のおもてはこほ
りふたぎぬ

めぐりには何もなき池のあらはにて地面ぢめんなら
びに氷張りたり

荒庭の池の氷にきらふ日のたちまちにしてか
げりくもりぬ

そこびえし雪をもよほす夕べ時荒れたるま
まに池はこほれり

駒形

雪ゆきのあと後に駒形橋をわたりけりわが子が住まむ家の下見したみに

開業してたち行くまでの辛抱をおぼつかなしと今日も憂ふる

假居かりみするわが子の家の前に立ち親おやの心はいひいでもせず

この家に住むをよろこびいさみ立つわが子あはれにした思ふなり

降りたらぬ雪ぞらまたも降りいでむくもりせまりて早正午しやうごなり

一月の末つかた

墨染の夕のそらのはだら雲うすれて見えずなる時に見つ

晝と夜といつとはなしに移るなりほのかにものありなしが見ゆ

210

残雪

けふこそはのどかになれる日あたりになれずばかりの雪解けずして

庭中に消のこる雪は土まみれよごれしままに日數経にけり

211

庭中に一かたまりの残雪は入日の後のしばらくは見ゆ

新月ヶ瀬の梅

畠中にとしふりし木の梅の花日はうららかに
てりかげりつつ

来て見れば梅の花園さかりにていまだちらぬ
ぞ樂しかりける

梅園の花のさかりをとめ來ればすこやかに老
いし人ら樂しむ

としふりて幹のなかばは朽ちてなほ花咲く梅
に品ぞそなはる

遠く来てゆふべになれば日がへりの時をしま
るる梅のしづけさ

大磯

三月三十日西大磯の小山に遊ぶ

小笹生の山みちづたひか躑かみ行きいまだすくな
しか鉤か手か蕨

初蕨もえいでていまだみじかきが小笹はびこ
るかげにかくるる

ふりはへて蕨をとりに来し山は木々の芽ぶき
の時おくれたり

めづらかに山の春日はしづかなり蘭の花にぞ
やすらひにける

春山に蘭の花莖香をはなち今もむかしもあら
じとぞ思ふ

をしへ子の少女ふたりは春蘭の株根掘り上げ
て土をふるへり

暮 春

いつまでも寒さつづきし春くれて今朝はちま
たに燕飛びかふ

若葉さす庭木ぶかくもなりゆきて蘇芳の花に
來鳴くうぐひす

聲ひくく池の蛙は鳴きをれど若葉にこもる晝
はしづけき

かきくもり雨近づきて風だてば若葉がくりに
小鳥友よぶ

梧桐の廣葉強張りきらぬほどそよ風にさへゆ
れやまなくに

けぶりちる松の花粉は池の上を傍へとそれつ
風の吹くにぞ

袖垣の唐忍冬の花咲くや過去はふたたび眼前
に見ゆ

初
夏

高天ははるかに晴れし明るさに雨を降らせて
通る浮雲

つゆどきの時降雨のをやみ間に鶯鳴きぬゆふ
べせまりて

紫陽花の花の色あひ七かはりながきさかりの
まだつづく頃

さみだれにぬるるうばらの花さはにかたまり
咲きて雨をふせげり

葉櫻の並木つづきの下しげりかもがやの穂は
重りなびきぬ

はなれては朝夕おもふをさな孫いつまで今の
ままのよき子ぞ

葡萄棚

縁さきの葡萄棚よりちる雨のしとじとやまぬ
幾日なるらむ

葉がくりに青き葡萄の粒立を二人の孫と見る
このゆふべ

朝夕をはなれてくらす孫を見になが降雨のゆ
ふべ來れり

いささかもこと心なく汝たちと遊びたのしむ
よきおほちぞよ

ひとつ家におきふしせねばおのづから孫さへ
うとくなりてゆくもの

蟋蟀

蟋蟀は庭樹にのぼり鳴くらしく二階の窓に聲
のまちかき

小夜中にきけばひとしくなく聲をしづめてし
げし庭のこほろぎ

こほろぎはくらきところにひそみゐて鳴くに
はあれどしげき聲々

夜のふけて空の遠くがわかるきは地震なふるふ
かとおもひあやぶむ

いとけなさうせ行く孫のふるまひはやくも
われをはなれてさびし

孫たちはいくたり居るぞいつくしみおもふは
誰ときくがうるさき

獵期來る

投毬のむかうへ走る獵犬の背高くして鹿の子
ほどあり

向かへて毬を投げむと樹のかげにつれ行く犬
はすぐにいで來つ

獵犬にゴム毬投げてひろはする人をり草の原
の夕月

閑庭

木瓜の實の三つ四つなれる細枝はさびしかた
への石の形も

平庭の奇しき形の立石に入日の光の端ぞとど
ける

この頃

さまさまのわづらひ事はつぎつぎにとりのけ
ゆかむ待遠くとも

ともすれば心沈むと人はいへど今はた何か思
ひまどはむ

祖母の柱をはづしをる琴の上のうちまたがり
てよろこべるはや

をさな子が三歳四歳ごろのいたづらに大人は
負けぬ叱るただちに

腹だたく聲あらげとがむるを幼きもの
はおそれざりけり

手ならひ

さきのなきつかひふるしの筆あまた入れおく
箱をとりいだし見つ

筆管にかきしるしおく年月の過ぐればはやし
手蹟のすすまざる

ものかくとむかへるときにおもはずも怖氣づ
きては手の強張りぬ

ふくよかに一つ一つのかな文字を心しづめて
書かむと思ふ

いにしへの義之の筆蹟のこれるは瘦々文字を
かかしめぬため

書き馴るる字形も筆のあつかひもかねて思へ
どあらためがたし

手ならふとよき手の本をひらき見てめづるも
のからまねられぬかな

いにしへと今との時代へだたりはつひに近づ
きがたくをはらむ

われはわが文字にて足りぬしかすがに古筆を
観ずといはれむは憂し

野蹟をばあがむる手かきありといへどよく習
へるはいまだかつて観す

老筆となりなむ時に筆あらびかたちくづれて
手蹟が下らむぞ

小石川某伯爵邸

朝時雨ふりいでし庭の松の上に鶯のとまるを
鷹かとおもふ

窓の戸も襖をしめつ庭の面の落葉に雨のふる
音のする

時雨ふり一日やますもから掘りの池尻にある
烏竹のやぶ

腰高の障子はくらししぐれふる一日机により
かかりぬつ

ひとときは町家の子等の外遊きこえしが止み
時雨の降り

雨しづかに上野の鐘のきこゆるを書き物やめ
てきくゆふべかも

よひ闇に門のくぐりをおしたれば銀杏の落葉
ちらばりて飛ぶ

後記

歌集「小笹生」は前に出した「庭苔」の次の集である。前集に大正十四年晩秋の木曾の旅をのこしたので、それをはじめに載せ、大正十五年より昭和六年十二月までで一冊とした。歌數五百七十四首。この中の木曾の春(昭和四年作)手ならひ(昭和六年作)は未發表のものであつたのを加へた。

「庭苔」をまとめた時に、次の集には旅の歌を作りたかつたが、二三度外

へは出たが旅らしいおもひをせず、したがつて前集との變化もなく、ひとつ所に止まつてゐる。

昭和七年一月より十年十二月までの第三集「朝雲」を昨年六月三十日に出版したから、後の雁が先になつた。後れて今この集を出さずともとも躊躇したが、柴谷武之祐、澁谷嘉次、中野久雄の諸君がしきりにすすめるのでその氣になつた。

歌数は減らしたが、やはり消した方がよいのがまじつてゐる。減らしたといふと選んだやうであるが、読みかへしてわれながらあたまのわるさが氣をいらだたせるが、今仕方がない。

私の歌集を三冊も「アララギ叢書」中にをさめ得たよろこばしさは

いふまでもない。ただ叢書中にありていかにも見劣がする集ではないかと只管おそれる。

「アララギ」のおかげで私は作歌をつづけて來たのだ。先づ齋藤茂吉大人に感謝する。それから土屋文明氏にも絶えず御世話になつてゐる。

この日、謹んで故友の靈を遠く遙にとひとぶらふ。装幀だの、こまかい事、澁谷君をわづらはした。相澤貫一君には原稿の淨寫と校正とを御頼みした。近頃公用多忙であるのに、快諾されたので手順よくはこんだ。

出版については古今書院主人橋本福松氏の友情をうれしく思ふ。

店員の田中三郎氏にも御厄介になった。

昭和十二年七月十日、まだ耳めづらしい蟬を
ききながら、代々木山谷寓居の二階にて

岡
麓

昭和十二年九月一日印刷
昭和十二年九月五日發行

歌集 小笹生
定價貳圓貳拾錢

著作權所有
出版權所有

著者 岡 三 郎
發行者 橋 本 福 松
印刷者 白 井 赫 太 郎
東京市神田區駿河臺二丁目十番地
東京市神田區錦町三丁目十一番地

精興社印行

發行所 東京市神田區駿河臺
二丁目十番地

古今書院
振替東京三五三四〇番

アララギ叢書目次

| | | | |
|------|--------|-------|-------------------|
| 第一編 | 島村憲吉著 | 馬鈴薯の花 | 古今書院發行 定價一圓八十錢 |
| 第二編 | 齋藤茂吉著 | 赤光 | 總發行 |
| 第三編 | 古泉千樞著 | 屋上の土 | 改造社發行 定價二圓五十錢 |
| 第四編 | 島木赤彦著 | 切火 | 總發行 |
| 第五編 | 齋藤茂吉著 | 短歌私鈔 | 總發行 |
| 第五編 | 齋藤茂吉著 | 續短歌私鈔 | 總發行 |
| 第六編 | 中村憲吉著 | 林泉集 | 春陽堂發行 定價二圓二十錢 |
| 第七編 | 齋藤茂吉著 | 童馬漫語 | 品切 |
| 第八編 | 島木赤彦著 | 氷魚 | 岩波書店發行 定價二圓五十錢 |
| 第九編 | 長塚節著 | 長塚節歌集 | 品切 |
| 第十編 | 齋藤茂吉著 | あらたま | 品切 |
| 第十一編 | 伊藤左千夫著 | 左千夫全集 | 總發行 |

| | | | |
|-------|---------|------------|-------------------|
| 第十二編 | 行路社同人編 | 松倉米吉歌集 | 古今書院發行 定價一圓五十錢 |
| 第十三編 | 土田耕平著 | 青杉 | 古今書院發行 定價一圓八十錢 |
| 第十四編 | 石原純著 | 曇日品 | 切 |
| 第十五編 | 中村憲吉著 | しがらみ | 岩波書店發行 定價一圓八十錢 |
| 第十六編 | 島木赤彦著 | 歌道小見 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第十七編 | アヲラ行ラ所編 | 灰燼集 | 古今書院發行 定價一圓八十錢 |
| 第十八編 | 島木赤彦著 | 太虚集 | 古今書院發行 定價二圓二十錢 |
| 第十九編 | 村上成之著 | 翠微 | 古今書院發行 定價一圓五十錢 |
| 第二十編 | 土屋文明著 | ふゆくさ | 古今書院發行 定價二圓三十錢 |
| 第二十一編 | 島木赤彦著 | 萬葉集の鑑賞 | 岩波書店發行 定價二圓 |
| 第二十二編 | 同 著 | 庭苔 | 古今書院發行 定價二圓五十錢 |
| 第二十三編 | 島木赤彦編 | アララギ年刊歌集第一 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第二十四編 | 土屋文明編 | アララギ故人歌集 1 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第二十五編 | 齋藤茂吉著 | つゆじも | 岩波書店發行 定價二圓 |

| | | | | |
|-------|---------|--------------------|---|-------|
| 第二十六編 | 齊藤茂吉著 | 金槐集私鈔 | 近 | 春風堂發行 |
| 第二十七編 | 齊藤茂吉著 | 良寛和歌集私鈔 | 近 | 同上 |
| 第二十八編 | 齊藤茂吉著 | 童牛漫語 | 近 | 同上 |
| 第二十九編 | 門間春雄著 | 門間春雄歌集 | 近 | 同上 |
| 第三十編 | 平瀨百穂著 | 寒竹 | 近 | 同上 |
| 第三十一編 | 藤澤古實著 | 原竹 | 近 | 同上 |
| 第三十二編 | 島木赤彦著 | 梯蔭集 | 近 | 同上 |
| 第三十三編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第二(大正十四年度) | 近 | 同上 |
| 第三十四編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第三(大正十五年) | 近 | 同上 |
| 第三十五編 | 岡麓著 | 故人歌集 2 | 近 | 同上 |
| 第三十六編 | 中村憲吉著 | 雷集 | 近 | 同上 |
| 第三十七編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第四(昭和二年) | 近 | 同上 |
| 第三十八編 | 結城哀草果著 | 麓 | 近 | 同上 |
| 第三十九編 | 高田浪吉著 | 波 | 近 | 同上 |

| | | | | |
|-------|---------|------------------|---|----|
| 第四十編 | 齊藤茂吉著 | 短歌寫生の説 | 近 | 同上 |
| 第四十一編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第四(昭和二年) | 近 | 同上 |
| 第四十二編 | 伊藤左千夫遺著 | 左千夫歌論集 卷一 | 近 | 同上 |
| 第四十二編 | 伊藤左千夫遺著 | 左千夫歌論集 卷二 | 近 | 同上 |
| 第四十二編 | 伊藤左千夫遺著 | 左千夫歌論集 卷三 | 近 | 同上 |
| 第四十二編 | 伊藤左千夫遺著 | 左千夫歌集 | 近 | 同上 |
| 第四十三編 | 土屋文明著 | 往還集 | 近 | 同上 |
| 第四十四編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第五(昭和三年) | 近 | 同上 |
| 第四十五編 | 竹尾忠吉著 | 八衢 | 近 | 同上 |
| 第四十六編 | 高田浪吉著 | 作歌餘録 | 近 | 同上 |
| 第四十七編 | 齊藤茂吉著 | 念珠集 | 近 | 同上 |
| 第四十八編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第六(昭和四年) | 近 | 同上 |
| 第四十九編 | 加納曉著 | 加納曉歌集 | 近 | 同上 |
| 第五十編 | 齊藤茂吉著 | 短歌初學門 | 近 | 同上 |

| | | | | |
|-------|---------|------------|----|-------------------|
| 第五十一編 | 今井邦子著 | 紫 | 草 | 岩波書店發行 定價二圓三十錢 |
| 第五十二編 | 築地藤子著 | 椰子 | 葉 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第五十三編 | 森山汀川著 | 峠 | 路 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第五十四編 | 久保田不二子著 | 苔 | 桃 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第五十五編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第七 | 濱 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第五十六編 | 高田浪吉著 | 砂 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第五十七編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第八 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第五十八編 | 白水吉次郎著 | 白水吉次郎歌集 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第五十九編 | 高田浪吉著 | 現代短歌の鑑賞 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第六十編 | 今井邦子著 | 茜 | 草 | 岩波書店發行 定價一圓八十錢 |
| 第六十一編 | 土田耕平著 | 斑 | 雪 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第六十二編 | 竹尾忠吉著 | 平 | 路 | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第六十三編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第九 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第六十四編 | 中村憲吉著 | 輕雷集 | 以後 | 岩波書店發行 定價一圓八十錢 |

| | | | | |
|-------|---------|-------------|---|-------------------|
| 第六十五編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第十 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第六十六編 | 岡 麓著 | 小 | 生 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第六十七編 | 岡 麓著 | 朝 | 雲 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第六十八編 | 結城哀草果著 | す | だ | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第六十九編 | 金田千鶴著 | 金田千鶴歌集 | | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第七十編 | 平福百穂著 | 竹 | 窓 | 岩波書店發行 定價二圓二十錢 |
| 第七十一編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第十一 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |
| 第七十二編 | 高田浪吉著 | 堤 | 防 | 岩波書店發行 定價二圓三十錢 |
| 第七十三編 | アララギ同人編 | アララギ年刊歌集第十二 | | 岩波書店發行 定價一圓五十錢 |

アララギ關係書目録

| | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 齋藤茂吉著 | 柿本人麿 | (總論編) | 岩波書店發行 |
| 齋藤茂吉著 | 柿本人麿 | (補註篇) | 岩波書店發行 |
| 齋藤茂吉著 | 柿本人麿 | (卷之四) | 岩波書店發行 |
| 齋藤茂吉著 | 新選秀歌百首 | (改造文庫) | 改造社發行 |
| 齋藤茂吉校訂 | 新訂金槐和歌集 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |
| 土屋文明編 | 萬葉集 | 年表 | 岩波書店發行 |
| 土屋文明著 | 歌集 | 山谷集 | 岩波書店發行 |
| 土屋文明著 | 萬葉集 | 名歌評釋 | 非九閣發行 |
| 土屋文明編 | 左千夫歌集 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |
| 土屋文明編 | 左千夫歌論抄 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |
| 岡麓校訂 | 入木道三部集 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |
| 土屋文明編 | 長塚節歌集 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |

| | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 久保田不二子選 | 赤彦歌集 | (岩波文庫) | 岩波書店發行 |
| 結城哀草果著 | 村里生活記 | 岩波書店發行 | |
| 高田浪吉著 | 作歌手記 | 古今書院發行 | |
| 高田浪吉著 | 短歌の鑑賞法 | 古今書院發行 | |
| 結城哀草果著 | 續村里生活記 | 岩波書店發行 | |
| 齋藤茂吉著 | 朝の螢 | 改造社發行 | |
| 島木赤彦著 | 十の年 | 改造社發行 | |
| 古泉千樞著 | 川のほとり | 改造社發行 | |
| 中村憲吉著 | 松の芽 | 改造社發行 | |
| 土屋文明著 | 放水路 | 改造社發行 | |
| 長塚節 | 全六卷 | 春陽堂發行 | |
| 赤彦 | 全八卷 | 岩波書店發行 | |
| 中村憲吉 | 全四卷 | 近刊 | |

萬葉集叢書 [古今書院發行]

| | | | | | |
|-----|-------------------|-----------|---------|---|--------|
| 第一輯 | 富士谷御枝遺著 島木亦彦校訂 | 萬葉集燈 | 品 | 切 | 定價二十一錢 |
| 第二輯 | 島田春彦遺著 折口信太郎校訂 | 萬葉集僻案抄 | 品 | 切 | 定價二十一錢 |
| 第三輯 | 折口信太郎校訂 | 萬葉集檜婦手 | 品 | 切 | 定價二十一錢 |
| 第四輯 | 荒木田久老遺著 島木亦彦校訂 | 萬葉考槻落葉 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第一卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第二卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第三卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第三上 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第三下 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第四卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第五卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第五輯 | 岸木由豆遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集攷證 第六卷 | 定價二圓八十錢 | | |
| 第六輯 | 下河邊長流遺著 武田祐吉校訂 | 萬葉集管見 | 定價三圓二十錢 | | |

| | | | | | |
|--------|-------------------|-----------|---------|--|--|
| 第七輯 | 武田祐吉校訂 仙覺遺著 | 萬葉集目安補正 | 定價二十一錢 | | |
| 第八輯 | 佐佐木信綱校訂 佐佐木信綱編 | 仙覺全集 | 定價三圓三十錢 | | |
| 第九輯 | 佐佐木信綱編 | 秘府本萬葉集抄 | 定價三圓五十錢 | | |
| 第十輯 | 佐佐木信綱編 | 萬葉集叢刊 中世篇 | 定價四圓三十錢 | | |
| 廣野三古實編 | 萬葉集全卷 (細羊皮裝) | 定價三圓八十錢 | | | |
| 廣野三古實編 | 萬葉集全卷 (普及版) | 定價二圓五十錢 | | | |
| 高田浪吉著 | 萬葉集鑑賞 卷第一 | 定價八錢 | | | |
| 高田浪吉著 | 萬葉集鑑賞 卷第二 | 定價一圓二十錢 | | | |
| 高田浪吉著 | 萬葉集鑑賞 卷第三 | 定價一圓五十錢 | | | |
| 武田祐吉著 | 續萬葉集 | 定價二圓八十錢 | | | |
| 上村六郎著 | 萬葉染色考 | 定價二圓二十錢 | | | |
| 長巳和文著 | 萬葉植物考 (增訂) | 定價二圓二十錢 | | | |
| 豐田八十代著 | 神と神を祭る者との文學 | 品 | | | |
| 武田祐吉著 | 萬葉集書志 | 定價二圓七十錢 | | | |

終

